



▲知的なインテリアオブジェとして楽しめる「数楽アート」

West Hall 4_Booth No.4135

(株)大橋製作所

会場MAP▶ P000

〒143-0013 東京都大田区大森南3-19-11 tel.03-3744-5351 fax.03-3744-5749 www.sugakuart.com

数学の美しさと職人の技が高次に融合した 「数楽アート」を身近なインテリアに

「数楽(すうがく)アート」は、ステンレス鋼板を組み合わせて作られた複雑で美しい立体のオブジェシリーズである。見る角度によってガラリと印象が変わるが、実は2変数関数の数式を元に作られたものである。

数楽アートを展開する(株)大橋製作所は、一九五九年に大田区で創業した金属加工の専門企業。精密な金属加工技術には定評がある。現在は液晶パネルにACF接合という特殊な技術で電子部品を接続する装置を自社開発。国内のみならず海外を含む大手携帯電話メーカーも同社の機器を使用しており、基幹事業の一つとして急成長している。一方で創業事業である金属板加工を行うメタル事業は仕事が減少しつつあった。そこで新たなメタル事業の柱とするため、コンシューマー向け事業の開発を進め、数楽アートの完成となった。

誕生のきっかけは以前より教材製作などで取り引きのあった、ある大学の工学部教授との会話から。教授が個人で製作した関数の数式を元にした紙製のオブジェを見ながら「金属で作ったらどんなに美しいことだろう…」とつぶやくの聞き、同社創業以来の社風である挑戦心に火が付いた。その後幾度かの試作を重ねて数楽アートは完成した。

製作は優れた金属加工技術を持つ同社職人が手掛ける。ステンレス鋼板をレーザーで切る際、溶けた破片が艶やかな鋼板に付着するのを防ぐためには、職人の高度な技術が必要である。また組み上げの際にも接続部に傷が付かないよう特殊な治具を開発して手作業でくみ上げるなど、随所に同社が長年培ってきた加工技術の粋が活かされているという。

つまり出来上がった作品は計算から導き出された数学的美しさだけでなく、職人の技術で生み出された工芸的美しさが融合していると言うことである。実際のオブジェを見ると、鋼板の組み合わせのみでできているはずなのに、高い精度で組み合わせられているため鋼板と鋼板の間にもみっしりと数式が詰まっているかのような不思議な感覚がある。

数楽アートは現在大11種、中4種、小5種の三タイプが発売されている。すでに昨年9月より書店や同社サイトなどで販売を行ったが知的な好奇心が刺激されるとして、40代以上の理系の男性に人気を集めている。同社では数楽アートを数学好きの方だけでなく、インテリアとして広くアピールしたいと話している。2次元という紙面に書かれた関数が3次元の世界で具現化された際の奥行きと美しさ、職人の技を是非会場で実際に目にしてみたい。



▲「ペガサス」は $z = a \cdot x \cdot y$ に基づく立体アート。直線が折り重なることで緩やかに曲面が表現されている



▲「コメット」を表す数式は $z = 1 - \sqrt{x^2 + y^2}$ 。1ミリの狂いもなく組み合わせられた鋼板が円錐を表現する



▲「グラビティ」は $z = -a(x^2 + y^2)$ から誕生。計算式としてもなじみ深い放物線をアートに表現



▲金属面の光沢が美しい「数楽アート」は、下からLEDなどで照らすことにより、さらに新しい表現を持ったオブジェとなる。